



第5章 研究

東京天文台時代の観測研究

近年の研究

観測テーマと対象

研究論文の推移

岡山天体物理観測所主催・共催研究会

“岡山天体物理観測所に思いを寄せて” 藤田 良雄

“星の分光観測：早期型星” 平田 龍幸

“星の分光観測：晩期型星” 辻 隆

“惑星状星雲と共生星” 田村 眞一

“測光連星の観測” 北村 正利

“銀河の撮像観測” 高瀬文志郎

“天の川に隠された銀河の観測” 斎藤 衛

“銀河の観測事始” 若松 謙一

M51

りょうけん座にある渦巻銀河。3000万光年の距離にある。大小2つの銀河がつながっている様子から、“子持ち銀河”の名前で有名である。銀河は、数億から数兆個の星とガスの集団で、その形は、楕円や渦巻き、不規則なものなど、さまざまである。我々の銀河系も、外から見ると、M51のような渦巻銀河だと考えられている。この子持ち銀河は、ちょうど二つの銀河が腕の部分をかすめて通過したため、お互いの引力で絡み合っ、このような姿になったといわれている。宇宙のあちこちでは、銀河同士が接近したり、衝突したりして、銀河の変形や合体が起きている。写真は陰画で、向かって上が北、右が西。

撮影期日：1962年3月31日、露出：60分、乾板：103aO、フィルター：なし、現像：Pandol 1:1 6分